



# Agile Product Lifecycle Management

Viewer の補足

v9.2.2.3

部品番号 E06158-01

2008 年 4 月

## 著作権および商標について

Copyright © 1995, 2008, Oracle. All rights reserved.

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしました、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、Agile は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることができます。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしました、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

# 目次

---

著作権および商標について .....	ii
<b>Viewer の概要 .....</b>	<b>1</b>
このマニュアルの使用方法.....	1
ヘルプを使用する.....	2
Viewer について .....	2
このリリースの新機能.....	3
Viewer ウィンドウ .....	3
複数ファイルで [添付ファイル] タブ行を表示する .....	4
Viewer を理解する .....	4
Viewer モード .....	4
Viewer ウィンドウのコンポーネント.....	5
オブジェクトを移動する .....	6
ショートカット メニューを使用してコマンドへアクセスする .....	6
進行中の操作をキャンセルする .....	7
<b>Agile 固有の特徴と機能.....</b>	<b>9</b>
Viewer で Agile 添付ファイルを開く .....	9
Java クライアントからファイルを表示する .....	9
Web クライアントからファイルを表示する .....	10
Viewer ウィンドウから Agile 添付ファイルを開く .....	11
ファイルのリビジョンまたはバージョンを比較する.....	13
構造化ファイル タイプを表示する .....	13
アドホック マークアップ .....	14
マークアップ - しくみ .....	15
添付ファイルのマークアップまたはレッドラインについてのガイドライン .....	15
Java クライアント .....	15
Web クライアント .....	16
設計変更のマークアップをレッドラインする .....	17
ドキュメントをマークアップする .....	20
ドキュメントのマークアップに関するヒント .....	20
2D 機能と特徴.....	20
EDA の機能と特徴 .....	20
3D 機能と特徴.....	21

---

3D の基本について .....	21
クロス プロービング .....	23
Java クライアントと Web クライアントでクロス プロービングする .....	24
ファイルを比較する .....	25
ファイルのマークアップと比較 .....	25
Java クライアントと Web クライアントでファイルを比較する .....	25
検索でファイルを比較する .....	25
ファイルのオーバーレイ .....	27
Java クライアントと Web クライアントでファイルをオーバーレイする .....	27
概略図と PCB ファイルの操作 .....	28
リアルタイム コラボレーション .....	28
コラボレーション セッションの概要 .....	28
デジタル モックアップ .....	29
Java クライアントと Web クライアントでのデジタル モックアップ .....	29
変更済みまたは使用不可能な Viewer 機能 .....	31
ユーザー インターフェースの変更 .....	31
ファイル ストレージと管理の変更 .....	31
ファイルを開く機能 .....	32
ハイパーリンクを使用する .....	32
Viewer モード .....	32
印刷 .....	33
Viewer からドキュメントを印刷する .....	33
印刷のプロパティのヘッダ/フッタ グループ .....	33
印刷プロパティのウォーターマークとバナー .....	34
ウォーターマーク グループ .....	34
印刷プロパティのスタンプ グループ .....	34
DGN ファイルを印刷する .....	35
Viewer の管理タスク .....	37
印刷オプションを設定する .....	37
.hpg および .plt ファイルのウォーターマークを印刷する .....	38
SolidWorks ファイルのビューポート ボーダを印刷する .....	38
ヘッダとウォーターマーク フォントの設定を修正する .....	38
フォントを追加する .....	39
Excel ファイルを表示する .....	39

# はじめに

Oracle|Agile マニュアル セットには Adobe® Acrobat™ PDF ファイルが含まれます。[Oracle Technology Network \(OTN\) Web サイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) には、Oracle|Agile PLM の最新版の PDF ファイルがあります。この Web サイトのマニュアルは、その場で表示することもダウンロードして使用することもできます。また、使用しているネットワーク上の Oracle|Agile マニュアル フォルダに Oracle|Agile マニュアル (PDF) ファイルが格納されている場合もあります。詳細は、Agile 管理者にお問い合わせください。

---

**注意** PDF ファイルを表示するには、Adobe Acrobat Reader™ のバージョン 7.0 以降 (無料) を使用する必要があります。このプログラムは、[Adobe 社の Web サイト](http://www.adobe.com) (<http://www.adobe.com>) からダウンロードできます。

---

[Oracle Technology Network \(OTN\) Web サイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) は、Agile Web クライアントと Agile Java クライアントのいずれの場合も、[ヘルプ] > [マニュアル] の順に選択してアクセスできます。さらに疑問点がある場合やサポートが必要な場合は、[サポート](http://www.oracle.com/agile/support.html) (<http://www.oracle.com/agile/support.html>) にお問い合わせください。

---

**注意** Oracle|Agile PLM マニュアルに関する問題について Agile サポートにお問い合わせいただく前に、タイトル ページにある完全な部品番号をご準備ください。

---

## Oracle サポート サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800) 446-2398 にお電話ください。アメリカ国外からの場合は、+1-407-458-2479 にお電話ください。

## ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

## Readme

Oracle|Agile PLM の最新情報は、すべて [Oracle Technology Network \(OTN\) Web サイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) にある Readme ファイルに記載されています。

## Agile トレーニング支援

Agile トレーニングの講義内容詳細については、[Oracle University Web ページ](http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html) ([http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry\\_new.html](http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html)) にアクセスしてください。

## ドキュメント内のサンプル コードのアクセシビリティについて

スクリーン リーダーは、ドキュメント内のサンプル コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかしスクリーン リーダーは括弧だけの行を読まない場合があります。

## 外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

# Viewer の概要

扱うトピックは次のとおりです。

■ このマニュアルの使用方法 .....	1
■ ヘルプを使用する .....	2
■ Viewer について .....	2
■ このリリースの新機能 .....	3
■ Viewer ウィンドウ .....	3
■ Viewer を理解する .....	4

## このマニュアルの使用方法

このマニュアルは、Agile Viewer オンライン ヘルプの補足資料です。Viewer オンライン ヘルプや他の Oracle|Agile マニュアルと関連付けて使用できます。

Viewer は Agile システムとの統合により、Agile システム機能を利用して添付ファイルの管理能力を発揮します。この統合により、viewer メニュー、ツールバー、ショートカットなどが合理化されます。次の表では、Agile の機能および概念などの役立つ情報が提供されている場所を説明しています。

機能や概念	ドキュメント
Java クライアント ナビゲーション	『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の第 2 章「Agile Java クライアントの操作」
Web クライアント ナビゲーション	『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の第 3 章「Agile Web クライアントの操作」
オブジェクト間の関係とルール	『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の第 5 章「ビジネス オブジェクトを使用する」
添付ファイル ファイル フォルダ オブジェクトを使用する ファイル フォルダの一括更新 フォルダを送信しレビューする ファイル検証 (ハンドル チェックサム) ファイル フォルダ内容を表示し、レッドラインする	『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の 「Agile Web クライアントの操作」 および 第 10 章「ファイル フォルダを使用する」
ECOx、MCO、SCO によってレッドラインする	『Product Collaboration ユーザー・ガイド』の第 5 章 「変更」

**注意** Agile PLM ドキュメントを検索するには、Java クライアントまたは Web クライアントで [ヘルプ] > [マニュアル] を選択して Agile PLM ドキュメント Web ページを表示します。

# ヘルプを使用する

ヘルプを使用するには、Agile Viewer メニュー バーで [ヘルプ]>[目次] を選択します。Viewer オンライン ヘルプが表示されます。これには、viewer 機能の使用方法に関する詳細情報が含まれます。

**注意** Viewer オンライン ヘルプで説明されている機能やユーザー インターフェースのうち、viewer が Agile システムとシームレスに統合されたものについては、9 ページの「[Agile 固有の特徴と機能](#)」を参照してください。

## Viewer について

Viewer では、オーサリング アプリケーションを使用せずに様々な形式のファイルを表示できます。データベース、グラフィック、スプレッドシート、ワードプロセッサ、CAD などの様々なアプリケーションで作成したファイルを表示できます。アーカイブ ファイルでも解凍せずにリストにしたり、表示したりすることができます。表示するファイルのタイプが自動的に特定されるため、ファイル タイプを指定する必要はありません。Agile 管理者は、Java クライアントの Agile Administrator モジュールで [サポートされるファイル タイプ] プロパティと [構造化ファイル タイプ] プロパティを設定することで、どのタイプのファイルを表示可能とするかを決定することができます。

**重要** Advanced Viewer でファイルを表示するには、Agile ディスカバリ、読み取り、およびファイル表示権限が必要です。Advanced Viewer でファイルをレッドラインするには、添付ファイルをレッドラインする権限が必要です (Agile のデフォルト役割の [自分をマークアップ] など)。

コメント、メモ、図面をドキュメントに添付するアクションは「マークアップ」と呼ばれます。このアクションは、注釈付けまたはレッドラインとも呼ばれます。「マークアップ」とは、マークアップ オブジェクトを添付することによってドキュメントに加えられる変更を意味します。Viewer を使用すると、ファイルを表示したりマークアップしたりすることができます。

**注意** Agile の Java クライアントと Web クライアントでは、添付ファイルのレッドラインがサポートされています。ECO(設計変更) のマークアップは、Java クライアントと Web クライアントの [添付ファイルのレッドライン] タブで作成できます。ECO(設計変更) の [対象アイテム] タブで該当するレッドライン タブにアクセスします。ファイル フォルダ オブジェクトのマークアップは、Java クライアントと Web クライアントのファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブで作成でき、ECO は必要ありません。

Viewer には以下の機能があります。

- 柔軟なユーザー定義のオブジェクト - Viewer には、円、雲、多角形、矢印など、様々なマークアップ オブジェクトが用意されています。オブジェクトには文字を添付でき、長いコメントは組み込みのメモに保存できます。  
マークアップ オブジェクトの詳細は、Viewer オンライン ヘルプを参照してください。Viewer のメニュー バーで、[ヘルプ]>[目次] を選択します。
- 未編集のオリジナル ドキュメントの保存 - オリジナル ドキュメントは修正されません。メモや図面は、メイン ドキュメントの一部のように表示されますが、すべてマークアップ ファイルと呼ばれる別のファイルに保存します。マークアップ ファイルの保存や読み取りを管理する必要はありません。Agile がこれらの作業をします。
- 英語以外の言語およびオペレーティング システムのサポート - Viewer は、英語以外の多くの言語で使用できます。日本語、中国語、フランス語、ドイツ語、ヘブライ語、スウェーデン語の各オペレーティング システムでテスト済みです。

## このリリースの新機能

以下の新機能がこのリリースに追加されました。

- 構造化された CAD 設計の表示

Agile PLM のこのリリースでは、Agile にアイテム構造として格納されている CAD データなどのデータを表示する機能がサポートされています。典型的な使用例として、Agile で「DocuBOM」構造に保存されている機械系または電子系 CAD アセンブリを、Engineering Collaboration (EC) CAD コネクタを使用して表示する場合が挙げられます。詳細は、13 ページの「[構造化ファイル タイプを表示する](#)」を参照してください。

- Viewer から Agile データを検索および参照する機能

以前のリリースでは、Viewer で比較、クロス プローブ、デジタル モックアップなどの複雑な操作を行う場合、Viewer を起動する前に Agile PLM で必要なすべてのファイルを選択する必要がありました。今回のリリースでは、Viewer コマンドに [Agile 検索] や [Agile 参照] などの新規ボタンが用意され、Viewer 自体から追加ファイルを取得できるようになりました。11 ページの「[Viewer ウィンドウから Agile 添付ファイルを開く](#)」を参照してください。

- 比較機能が拡張され、ユーザーは Agile PLM の [表示] コマンドを実行して特定のファイルを表示できるようになり、Viewer の [比較] コマンドに、比較対象となるファイルの追加リビジョンまたはバージョンの事前読み込みリストが含まれるようになりました。これにより、Viewer ウィンドウを離れることなく、複数のリビジョンまたはバージョンに対して [比較] コマンドを反復的に実行するプロセスが簡易化されました。13 ページの「[ファイルのリビジョンまたはバージョンを比較する](#)」を参照してください。

## Viewer ウィンドウ

Viewer は [添付ファイル] タブ、またはファイル フォルダの [ファイル] タブから起動することができます。

### Java クライアントで Viewer を起動する手順は、次のとおりです。

添付ファイルの行をダブルクリックします。

または

1. 1 行以上の行を選択します。

2. [ファイルの表示] ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから [表示]  を選択します。

**注意** [表示]  アイコンがボタンで見える場合は、このボタンをクリックします。

### Web クライアントで Viewer を起動する手順は、次のとおりです。

テーブルでファイル名のリンクをクリックします。

または

1. 1 行以上の行を選択します。

2. [ファイルの表示] ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから [表示]  を選択します。

**注意** [表示]  アイコンがボタンで見える場合は、このボタンをクリックします。

Viewer を起動すると、Viewer のメイン ウィンドウが表示されます。

**注意** Viewer の起動の詳細は、9 ページの「[Viewer で Agile 添付ファイルを開く](#)」を参照してください。

## 複数ファイルで [添付ファイル] タブ行を表示する

Agile ビジネス オブジェクトの [添付ファイル] タブでファイルを表示する際、複数ファイルを持つファイル フォルダを参照する單一行を表示する場合は、[ファイルの選択] ウィンドウが表示されます。[ファイルの選択] ウィンドウにはそのファイル フォルダ内のファイルが表示され、表示する 1 つ以上のファイルを選択することができます。

**注意** Agile Viewer の起動の詳細は、9 ページの「[Viewer で Agile 添付ファイルを開く](#)」を参照してください。

# Viewer を理解する

以降の項では、Viewer のメイン ウィンドウ、実行モードおよびその他の必要な情報について説明します。

## Viewer モード

Viewer には 2 つのパフォーマンス モードがあります。表示とマークアップです。

### 表示モード

ビジネス オブジェクトの [添付ファイル] タブまたはファイル フォルダの [ファイル] タブからドキュメントを最初に開くと、メニュー バーとツールバーは表示モードになっています。表示モードは Agile Viewer のデフォルトのモードです。ドキュメントの編集やマークアップは、マークアップ モードでのみ可能です。マークアップ モードについては次の項で説明します。

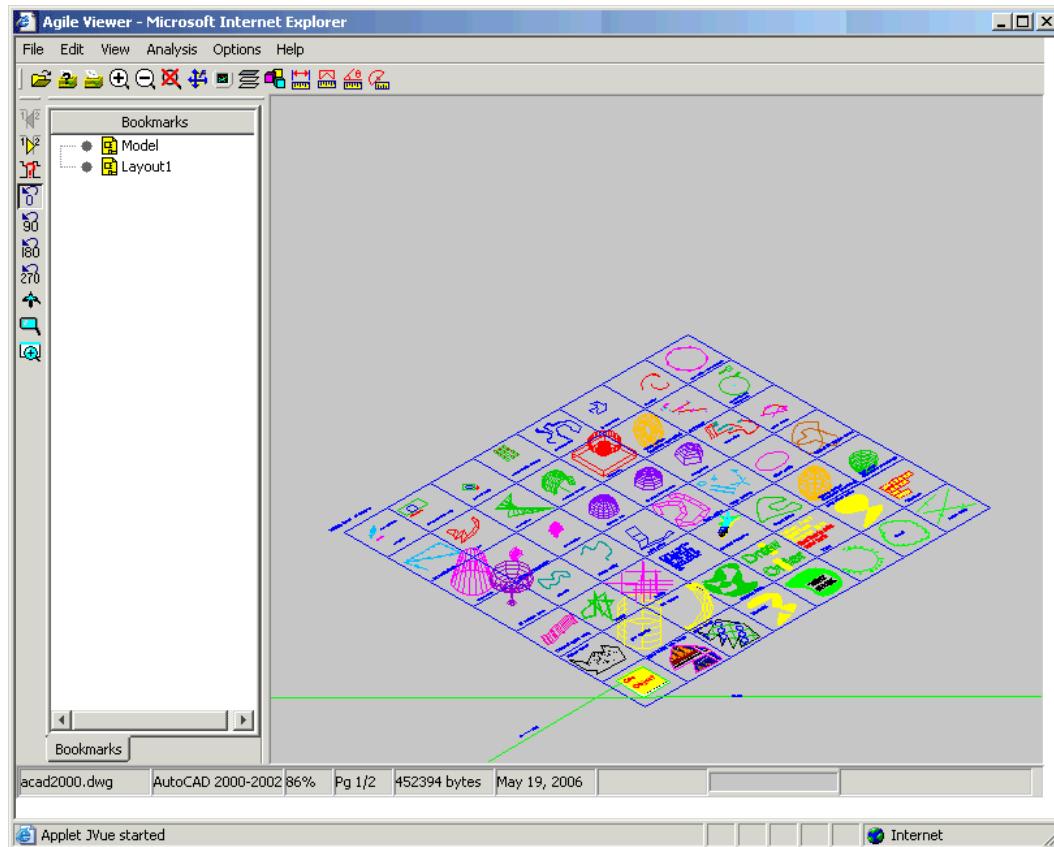
### マークアップ モード

Agile Viewer をマークアップ モードに設定すると、現在表示しているドキュメントをマークアップできます。レッドラインや注釈を付けることも可能です。使用可能なマークアップ オブジェクトには、様々な形状、メモ、シンボル、文字があります。ファイル フォルダ オブジェクトの [添付ファイルのレッドライン] タブまたはファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブから Agile Viewer を開くと、表示モードまたはマークアップ モードのいずれかで開きます。どちらのモードで開くかは、添付ファイルの状態（マークアップが保存されているかどうか）、およびユーザーに割り当てられた権限によって決まります。添付ファイルがチェックアウトされ、レッドラインが許可されていない場合は、Agile Viewer マークアップ モードに変更し、保存されたマークアップを表示することができます。表示モードからマークアップ モードに切り替える方法については、15 ページの「[添付ファイルのマークアップまたはレッドラインについてのガイドライン](#)」を参照してください。マークアップ ファイルを開くと、自動的にマークアップ モードに切り替わります。

**注意** マークアップ許可のあるタブから Viewer を開いた場合のみ、Viewer でマークアップ モードを利用できます。設計変更の [添付ファイルのレッドライン] タブおよびファイル フォルダの [ファイル] タブから表示できます。さらに、添付ファイルをレッドラインするには適切な権限が必要です（Agile のデフォルト役割の [自分をマークアップ] など）。割り当てられた役割と権限について質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

## Viewer ウィンドウのコンポーネント

Viewer の作業環境には、次の図に示すようにいくつかの基本コンポーネントがあります。これらは Viewer が表示モードまたはマークアップ モードのいずれであるかによって異なります。



### メニュー バー

すべてのメニュー コマンドには、ウィンドウ上部にあるメニュー バーからアクセスします。使用できるコマンドは、Viewer のモード、および実行しているタスクによって異なります。

### ツールバー

メニュー バーの下にあるツール ボタンを使用すると、メニュー バーに表示されている基本コマンドに容易にアクセスすることができます。メニュー コマンドと同様、使用できるツールバー ボタンは、Viewer のモード、および実行しているタスクによって異なります。

### ステータス バー

ステータス バーは、表示モード、マークアップ モードのいずれの場合もメイン ウィンドウの下部に位置しています。各モードのステータス バーには、次のフィールドが左から右に表示されています。マーカー (次のリストを参照)、現在のアクティブなファイルの名前、ファイル タイプ、ズーム倍率、現在のページおよび全ページ数、現在のアクティブなファイルのサイズ、ファイル作成日、ポインタの座標位置。

ステータス バーには、次の種類のマーカーを表示できます。

- 赤い電球のマーカーは、現在のアクティブなファイルに関連付けられたマークアップ ファイルがあることを示します。表示モードで、[ファイル] メニューから [マークアップ モード] をクリックし、[マークアップ ファイル] ダイアログ ボックスを表示します。次に、開くマークアップ ファイルまたはマークアップ ファイルのグループを選択します。マークアップ ファイルを開くと、自動的にマークアップ モードに切り替わります。
- 赤い感嘆符のマーカーは、現在のアクティブなドキュメントを表示するために必要なメイン リソースに欠落しているものがあることを示します (たとえば、フォントや CAD ファイルが欠落しているなど)。足りないリソースを迅速に特定するには、赤い感嘆符をクリックし、[プロパティ] ダイアログ ボックスを開きます。
- [セッションに参加] ボタン  は、コラボレーション セッションへの参加を依頼されていることを示します。

## オブジェクトを移動する

クリックとドラッグ操作を行うには、マウスの左ボタンを使用します。

- 表示モード - デフォルトでは、クリック アンド ドラッグ操作により、サポートされている全ファイル形式 (ラスター ファイルとベクトル ファイルを含む) の自動拡縮を実行します。拡大する領域を選択します。
- マークアップ モード - オブジェクトが選択されている場合、ドラッグ操作により、オブジェクトを修正し、移動します。オブジェクトが選択されていない場合、ドラッグ操作により、自動拡縮 (表示モードと同じ) を実行します。

オブジェクトを選択するには、そのオブジェクトをクリックします。選択されたオブジェクトがテキスト ボックスで囲まれます。フレームのハンドルをドラッグすると、オブジェクトのサイズが変わります。オブジェクトを移動するには、カーソルが手のポインタに変わるまで、カーソルをマークアップ要素の端(縁)まで移動します。手のポインタを新しい場所にドラッグします。

## ショートカット メニューを使用してコマンドへアクセスする

Agile Viewer の機能に簡単かつ迅速にアクセスするには、ショートカット メニューを使用します。表示ウィンドウの上にポインタを置き、右クリックすると、適切なコマンドにアクセスできます。

表示モードでは、以下のコマンドを使用します。

- 全体表示 - ドキュメントの幅を自動的に調整して表示ウィンドウに合わせます。
- 前拡縮 - 自動的に前の拡縮レベルに戻します。
- ページ幅をズーム - ドキュメントの幅を自動的に調整して表示ウィンドウに合わせます。
- マークアップ/マークアップ終了 - マークアップ モードに切り替え、およびマークアップ モードを終了して、既存のマークアップを開くか、または新規に作成します。マークアップ コマンドを表示モードで使用できるのは、マークアップが有効な場合だけです。

マークアップ モードでは、以下のコマンドを使用します。

- 線種 - マークアップで使用する線のスタイルを選択します。
- 線幅 - マークアップに使用する線の太さを選択します。

- ▣ 塗りつぶしのタイプ - マークアップ オブジェクトの塗りつぶしのタイプを選択します。[ソリッド]、[なし]、または [透過] から選択します。
- ▣ マークアップ カラー - マークアップ オブジェクトの色を選択します。
- ▣ 並び替え - 同時に表示されている複数のマークアップの表示順序を選択します。
- ▣ マークアップ レイヤ - 表示されるまたはアクティブなレイヤの選択、レイヤの色の変更、新規レイヤの追加、および既存のレイヤの名前変更をします。

## 進行中の操作をキャンセルする

たとえば、矩形の作成中に雲形に修正したい場合は、矩形の作成中に右クリックします。矩形は表示から消去されます。

すでに矩形を作成してしまった場合、メニュー バーから [編集]>[取り消し] を選択するか、矩形を選択してキーボードで [Del] キーを押します。それまで作成していた図は消去されます。



# Agile 固有の特徴と機能

扱うトピックは次のとおりです。

■ Viewer で Agile 添付ファイルを開く .....	9
■ アドホック マークアップ .....	14
■ マークアップ - しくみ .....	15
■ 添付ファイルのマークアップまたはレッドラインについてのガイドライン .....	15
■ ドキュメントをマークアップする .....	20
■ 2D 機能と特徴 .....	20
■ EDA の機能と特徴 .....	20
■ 3D 機能と特徴 .....	21
■ クロス プロービング .....	23
■ ファイルを比較する .....	25
■ ファイルのオーバーレイ .....	27
■ 概略図と PCB ファイルの操作 .....	28
■ リアルタイム コラボレーション .....	28
■ デジタル モックアップ .....	29

## Viewer で Agile 添付ファイルを開く

ビジネス オブジェクトの [添付ファイル] タブ、またはファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブで、ファイルを表示することができます。

### Java クライアントからファイルを表示する

Java クライアントの [添付ファイル] タブからファイルを表示する手順は、次のとおりです。

1. ファイルを参照するビジネス オブジェクトの [添付ファイル] タブへアクセスします。
2. 添付ファイルの行をダブルクリックします。
  - 添付ファイル行が参照するファイル フォルダにファイルが 1 つしかない場合、Viewer が開いてそのファイルが表示されます。
  - 添付ファイル行が参照するファイル フォルダにファイルが複数ある場合は、[ファイルの選択] ウィンドウが表示されます。表示する 1 つ以上のファイルを選択して、[OK] をクリックします。Viewer が開いて選択したファイルが表示されます。

または、[添付ファイル] タブの [ファイルの表示] ボタンを使用することができます。

1. ファイルを参照するビジネス オブジェクトの [添付ファイル] タブへアクセスします。
2. 1 つまたは複数の添付ファイル行を選択します。
3. [ファイルの表示] ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから [表示]  を選択します。

---

**注意**  アイコンがボタンで見える場合は、このボタンをクリックします。

- ファイルが 1 つのみのファイル フォルダを参照する 1 つの添付ファイル行を選択すると、Viewer が開いてそのファイルが表示されます。
- ファイルが複数あるファイル フォルダを参照する 1 つの添付ファイル行を選択すると、[ファイルの選択] ウィンドウが表示されます。表示する 1 つ以上のファイルを選択して、[OK] をクリックします。Viewer が開いて選択したファイルが表示されます。
- 複数の添付ファイル行を選択すると、選択したすべての行のすべてのファイルが Viewer で開いて表示されます。[ファイルの選択] ウィンドウは表示されません。

**Java クライアントの [ファイル] タブからファイルを表示する手順は、次のとおりです。**

1. 表示するファイルを含むファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブへアクセスします。
2. ファイル テーブルでファイル名をダブルクリックします。  
Viewer が開いてファイルが表示されます。
3. または、1 行以上のファイル行を選択します。
4. タブ メニューの [ファイルの表示] ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから [表示]  を選択します。

**注意** [表示]  アイコンがボタンで見える場合は、このボタンをクリックします。

Viewer が開いて選択したファイルが表示されます。

## Web クライアントからファイルを表示する

**Web クライアントの [添付ファイル] タブからファイルを表示する手順は、次のとおりです。**

1. ファイルを参照するビジネス オブジェクトの [添付ファイル] タブへアクセスします。
2. 添付ファイル テーブルでファイル名のリンクをクリックします。
  - 添付ファイル行が参照するファイル フォルダにファイルが 1 つしかない場合、Viewer が開いてそのファイルが表示されます。
  - 添付ファイル行が参照するファイル フォルダにファイルが複数ある場合は、[ファイルの選択] ウィンドウが表示されます。表示する 1 つ以上のファイルを選択して、[完了] をクリックします。Viewer が開いて選択したファイルが表示されます。

**または、[添付ファイル] タブの [表示] ボタンを使用することができます。**

1. ファイルを参照するビジネス オブジェクトの [添付ファイル] タブへアクセスします。
2. 1 つまたは複数の添付ファイル行を選択します。
3. [表示] ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから [表示]  を選択します。

**注意** [表示]  アイコンがボタンで見える場合は、このボタンをクリックします。

- ファイルが 1 つのみのファイル フォルダを参照する 1 つの添付ファイル行を選択すると、Viewer が開いてそのファイルが表示されます。
- ファイルが複数あるファイル フォルダを参照する 1 つの添付ファイル行を選択すると、[ファイルの選択] ウィンドウが表示されます。表示する 1 つ以上のファイルを選択して、[OK] をクリックします。Viewer が開いて選択したファイルが表示されます。
- 複数の添付ファイル行を選択すると、選択したすべての行のすべてのファイルが Viewer で開いて表示されます。[ファイルの選択] ウィンドウは表示されません。

### Web クライアントの [ファイル] タブからファイルを表示する手順は、次のとおりです。

1. 表示するファイルを含むファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブへアクセスします。
2. ファイル テーブルでファイル名のリンクをクリックします。  
Viewer が開いてファイルが表示されます。
3. または、1 行以上のファイル行を選択します。
4. タブ メニューの [表示] ボタンのドロップダウン矢印をクリックし、メニューから [表示]  を選択します。

**注意** [表示]  アイコンがボタンで見える場合は、このボタンをクリックします。

Viewer が開いて選択したファイルが表示されます。

### Viewer ウィンドウから Agile 添付ファイルを開く

Viewer ウィンドウが開かれている場合、Java クライアントまたは Web クライアントの [添付ファイル] タブ コマンドを使用しなくとも、Viewer メニューから様々な Agile 添付ファイルを選択して表示することができます。

Agile 添付ファイルの選択に使用できる Viewer のメニュー選択は、Viewer を開いたときに Agile PLM で選択していた機能（表示、クロス プローブ、比較、オーバーレイまたはデジタル モックアップ）および現在表示しているファイルのファイル タイプによって異なります。

**注意** 添付ファイルの選択に使用できる Viewer のメニュー選択リストは変わることがあるため、特定の Viewer セッションでは次のメニュー選択を使用できないことがあります。

新たな添付ファイルを選択するために使用可能な Viewer のメニュー選択は、次のとおりです。

- [ファイル] | [URL を開く]
- [分析] | [比較]
- [分析] | [オーバーレイ]
- [分析] | [DMU]
- [分析] | [クロス プローブ]

表示または現在の分析ビューに追加するファイルを選択するために、これらのいずれかのメニュー選択を選択すると、[ファイルを開く] ダイアログが表示されます。[ファイルを開く] ダイアログの [Agile 参照] ボタンにより、Agile ブックマーク使用してファイルを選択することができます。[ファイルを開く] ダイアログの [Agile 検索] ボタンにより、簡易検索を実行してファイルを選択することができます。

### Agile ブックマークを使用して添付ファイルを選択する手順は、次のとおりです。

1. 使用可能な Viewer のメニュー オプションを選択します。
  - [ファイル] | [URL を開く]
  - [分析] | [比較]
  - [分析] | [オーバーレイ]
  - [分析] | [DMU]
  - [分析] | [クロス プローブ]
2. [ファイルを開く] ダイアログが開くまで、ダイアログのメッセージに従います。

3. [ファイルを開く] ダイアログの [Agile 参照] ボタンをクリックして、[DMS: ファイルを開く] ダイアログを表示します。

[DMS: ファイルを開く] ダイアログに Agile ブックマークがツリー構造で表示されます。

**注意** Agile PLM でブックマークをまったく指定していない場合、[ファイルを開く] ダイアログに [Agile 参照] ボタンは表示されません。

4. + をクリックしてブックマークを展開し、アイテム リビジョンまたはファイル フォルダ バージョンを表示します。

5. リビジョン行またはバージョン行をクリックして、表示するファイルを強調表示します。

6. [DMS: ファイルを開く] ダイアログで [OK] をクリックします。

[ファイルを開く] ダイアログの [ファイル名] フィールドに、選択したファイル名が表示されます。

7. [ファイルを開く] ダイアログで [OK] をクリックします。

選択したファイルが Viewer に開かれるか、必要に応じて現在の分析機能に追加されます。

#### 簡易検索を実行して添付ファイルを選択する手順は、次のとおりです。

1. 使用可能な Viewer のメニュー オプションを選択します。

- [ファイル] | [URL を開く]
- [分析] | [比較]
- [分析] | [オーバーレイ]
- [分析] | [DMU]
- [分析] | [クロス プローブ]

2. [ファイルを開く] ダイアログが開くまで、ダイアログのメッセージに従います。

3. [ファイルを開く] ダイアログの [Agile 検索] ボタンをクリックして、簡易検索を実行する [検索] ダイアログを表示します。

4. 検索を定義して、[検索] ボタンをクリックします。

- クラス - アイテムなどのオブジェクト クラスを選択します。
- パラメータ検索 - テキスト文字列または数値を入力します。

Agile PLM で、オブジェクト ID 番号属性およびオブジェクト名またはオブジェクト説明属性が検索されます。簡易検索はテキスト文字列の [含む] 検索のように動作します。検索条件は单一文字列および名前の Agile PLM 検索として、またはパラメータ検索文字列を含む説明として処理されます。ID 番号の場合、Agile PLM は完全に一致するものを検索しますが、ワイルドカード文字を使い検索条件として ID 番号の一部を指定することができます。

- 添付ファイル コンテンツの検索 - 添付ファイルのコンテンツも検索する場合は、このパラメータを [はい] に設定します。

5. 検索結果テーブルで、オブジェクト番号の横の + をクリックして、そのオブジェクトの添付ファイルを展開します。

6. リビジョン行またはバージョン行をクリックして、表示するファイルを選択します。

7. [ファイルのロード] ボタンをクリックします。

[ファイルを開く] ダイアログの [ファイル名] フィールドに、選択したファイル名が表示されます。

8. [ファイルを開く] ダイアログで [OK] をクリックします。

選択したファイルが Viewer に開かれるか、必要に応じて現在の分析機能に追加されます。

## ファイルのリビジョンまたはバージョンを比較する

ファイルをアイテムの [添付ファイル] タブまたはファイル フォルダの [ファイル] タブで表示し、次に Viewer ウィンドウから比較対象のファイルの他のアイテム リビジョンまたはファイル フォルダ バージョンを選択することができます。1 つのリビジョンまたはバージョンを比較した後、他のリビジョンまたはバージョンを選択して、Viewer ウィンドウでファイルの複数のリビジョンまたはバージョンを比較することができます。

### 添付ファイルの複数のアイテム リビジョンを比較する手順は、次のとおりです。

1. [添付ファイル] タブで、比較するファイルを選択します。
2. タブ メニューから [表示] を選択します。Viewer が開いて選択したファイルが表示されます。
3. Viewer メニューで [分析]|[比較] を選択します。[ファイルを開く] ダイアログが表示されます。
4. ドキュメント バージョンのチェックボックスを選択します (選択されていない場合)。
5. ドロップダウン メニューから、比較対象の他のファイル リビジョンを選択します。

**注意** ドロップダウン リストにはリリース済みのアイテム リビジョンのみが表示されます。  
保留中リビジョンの添付ファイルを比較するには、保留中リビジョン ファイルを表示し、  
次に [分析]|[比較] を使用して比較するリリース済みリビジョンを選択します。

6. [OK] をクリックします。Viewer の 2 つめのウィンドウに選択したバージョンが開かれ、3 つめのウィンドウに 2 つのファイルの違いが表示されます。
7. 他のリビジョンを比較するには、Viewer メニューから [ファイル]|[比較モードの終了] を選択します。
8. ステップ 3 から 6 を繰り返して、他のアイテム リビジョンを選択します。

### ファイルの複数のファイル フォルダ バージョンを比較する手順は、次のとおりです。

1. ファイル フォルダの [ファイル] タブで、比較するファイルを選択します。
2. タブ メニューから [表示] を選択します。Viewer が開いて選択したファイルが表示されます。
3. Viewer メニューで [分析]|[比較] を選択します。[ファイルを開く] ダイアログが表示されます。
4. ドキュメント バージョンのチェックボックスを選択します (選択されていない場合)。
5. ドロップダウン メニューから、比較対象の他のファイル フォルダ バージョンを選択します。
6. [OK] をクリックします。Viewer の 2 つめのウィンドウに選択したバージョンが開かれ、3 つめのウィンドウに 2 つのファイルの違いが表示されます。
7. 他のファイル バージョンを比較するには、Viewer メニューから [ファイル]|[比較モードの終了] を選択します。
8. ステップ 3 から 6 を繰り返して、他のファイル フォルダ バージョンを選択します。

## 構造化ファイル タイプを表示する

ドキュメント オブジェクト BOM 構造を使用して、Agile PLM に CAD データを格納することができます。Agile PLM と EC が Engineering Collaboration (EC) CAD コネクタを使用して統合されている場合、この処理は通常、自動的に実行されます。CAD アセンブリ ファイルが Agile ドキュメント オブジェクトに添付され、下位の CAD 部品ファイルも Agile ドキュメント オブジェクトに添付されます。部品ファイル ドキュメント オブジェクトが CAD アセンブリ ドキュメント オブジェクトの [BOM] タブに表示され、添付ファイルの階層ファイル構造が構築されます。

<b>注意</b>	構造化ファイル階層に使用されるファイル タイプは、Agile Administrator で [構造化ファイル タイプ] として指定されます。他のファイル タイプはすべて、[サポートされるファイル タイプ] として指定されます。
-----------	--

構造化ファイル タイプのアセンブリ添付ファイルを開くと、下位の部品ファイルも Viewer に自動的に開かれ、CAD 設計全体を表示することができます。このプロセスはシームレスに行われ、アセンブリ ファイルの表示機能の開始以外に、ユーザーによる操作は必要ありません。

次に、CAD 設計表示のために、Agile PLM でドキュメント BOM 構造から構造化ファイル タイプのファイルを抽出する方法の詳細を示します。

- Agile PLM では構造化ファイル タイプのファイルのみを抽出します。添付ファイル タイプが [サポートされるファイル タイプ] リストで指定されている場合、Agile PLM はドキュメント構造で他のファイルを検索しません。
- ファイル タイプが [構造化ファイル タイプ] リストにある場合、Agile PLM はドキュメント階層の全レベルを検索し、選択されたファイルから始めて、モデル全体を構築するために必要なその他のファイルを抽出します。
- 不必要なファイルを抽出しないために、表示ロジックではドキュメントの [添付ファイル] タブの [添付ファイル タイプ] 属性が使用されます。最初に選択された添付ファイルのこの属性に値が指定されている場合 (SOURCE など)、[添付ファイル タイプ] 属性がこの値と一致するファイルのみが抽出されます。[添付ファイル タイプ] 属性に値がない場合、構造階層内のすべてのファイルが抽出されます。
- 同一ドキュメントに [添付ファイル タイプ] がこの値と一致する添付ファイルが複数ある場合、すべてが抽出されて Viewer に送信されます。これには、表示操作が開始されたドキュメントが含まれます。
- 階層内のドキュメントに添付ファイルがない場合、または [添付ファイル タイプ] に適切な値が指定されていない場合、抽出プロセスは終了されず、ツリーの下位で抽出が続行されます。
- Agile の管理者は、CAD リビジョン BOM 属性を使用するように Agile PLM を設定することができます。この技法は主に標準の Agile Engineering Collaboration (EC) CAD コネクタによって使用され、CAD 設計に対して、保存したとおりに固定された BOM 解決を提供します。この機能が有効になっていると、設計の過去のリビジョンを表示する際、リビジョンは保存したとおりに表示されます。有効になっていないと、子コンポーネントがリビジョンされた場合、設計の過去のリビジョンは若干異なって表示されます (つまり、標準の Agile BOM 解決ロジックに従います)。
- 保留中リビジョンを含め、表示のために任意のドキュメント リビジョンを選択することができます。CAD リビジョン属性が有効になっている場合、保留中リビジョンを表示すると、CAD から保存された構造内のアクティブなすべての保留中リビジョンが表示されます。
- 構造化ファイル タイプは、表示、マークアップ、比較、クロス プローブ、オーバーレイおよびデジタル モックアップなど Agile Viewer のすべての操作でサポートされています。

## アドホック マークアップ

アドホック 2D、3D、および EDA/ECAD マークアップは、ファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブから行われます。設計変更により制御された 2D、3D、および EDA/ECAD マークアップは、ECO の [添付ファイルのレッドライン] タブから行われます。マークアップ ファイルを表示すると、ベース ファイルとも呼ばれるオリジナル ファイルも開きます。

<b>注意</b>	設計変更に制御されたマークアップとアドホック マークアップは、互いに独立しています。
-----------	--

設計変更に制御されたマークアップを表示するには、アイテム [添付ファイル] タブの適切なリビジョン、または設計変更 [添付ファイルのレッドライン] タブから、レッドライン ファイルを開きます (17 ページの「[アイテム保留中リビジョン](#)」の「[添付ファイル タブから ECO レッドラインを表示する](#)」を参照)。

アドホック マークアップを表示するには、ファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブからレッドライン ファイルを開きます。

## マークアップ - しくみ

マークアップとは、電子ドキュメントに追加する図や書き込みなどを指します。Agile Viewer では、マークアップは別のマークアップ ファイルに保存されるため、元のドキュメントは修正されません。Agile Viewer でマークアップ ファイルを表示すると、メモリにマークアップがロードされ、元のドキュメントに重ねて表示されます。

1 つのドキュメントに対して、いくつもの固有の名前を付けたマークアップ ファイルを作成することができます。これによって、複数の人が同一のドキュメントに対してそれぞれのマークアップ ファイルを同時に作成することができます。各マークアップ ファイルの情報によって、誰が作成したかを判断することもできます。

マークアップ ファイルは、個々に名前を付けたレイヤに分けられます。レイヤを任意の名前で作成し、それぞれ色を付けてドキュメントを整理できます。たとえば、時間的な優先度によって色分けしたり、目的別にレイヤを分けてマークアップを作成することもできます。マークアップ ファイルは他の添付ファイルとともに、Agile File Manager (AFM) の一部であるファイル格納庫に保存されます。マークアップ ファイルは Agile により管理され、レッドライン ドキュメントを表示する際に自動的に読み取られ、提示されます。

## 添付ファイルのマークアップまたはレッドラインについてのガイドライン

適切な権限があれば、ファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブで 2D、3D、および EDA ファイルをレッドラインし、ECO の [対象アイテム] タブからアクセス可能な [添付ファイルのレッドライン] タブで Microsoft Office ドキュメント、2D、3D、EDA ファイルをレッドラインできます。

**注意** ファイルのマークアップは、ECO の [対象アイテム] タブまたはファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブでのみ作成および編集できます。また、Agile 管理者によって添付ファイルをマークアップまたはレッドラインする権限を割り当てられていないかもしれません。ECO とファイル フォルダ オブジェクトの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

## Java クライアント

Java クライアントで、**設計変更からの添付ファイルをマークアップまたはレッドラインする手順は、次のとおりです。**

- 添付ファイルのマークアップまたはレッドラインが済んでいない場合、未リリースの ECO の [対象アイテム] タブに添付ファイル付きアイテムを追加します。アイテムには、未リリース ECO に関連付けられた保留中リビジョンがあります。

**注意** ECO を通して添付ファイルをレッドラインする場合、保留中リビジョンの添付ファイル フォルダ バージョンは特定のバージョン番号に設定する必要があります。フォルダ バージョンが [LATEST-x] に設定されている場合、レッドライン マークアップを作成することはできません。ただし、保留中リビジョンの [添付ファイル] タブでフォルダ バージョンを編集し、特定のフォルダ バージョンを参照するよう設定することができます。

たとえば、アイテムの保留中リビジョンがファイル フォルダのフォルダ バージョン LATEST-7 を参照している場合、[添付ファイル] タブの行を選択し、[編集]  ボタンをクリックし、[編集] ダイアログ ボックスの [フォルダ バージョン] ドロップダウン リストから 7 を選択します。[OK] をクリックして、編集プロセスを終了します。これで、この添付ファイルのレッドライン マークアップを作成することができます。ECO の [対象アイテム] タブで、追加されたアイテムを選択してください。

[添付ファイルのレッドライン] タブで、次の操作を行います。

- レッドラインするファイルを含む行を選択し、[表示] ボタンをクリックします。
- または
- レッドラインするファイルを含む行をダブルクリックします。
2. Viewer が表示されたら、[マークアップ] ボタンをクリックします。(このボタンが使用できるのは、マークアップが有効な場合だけです。)
  3. Viewer オンライン ヘルプで説明するツールを使用し、添付ファイルをレッドラインします。オンライン ヘルプを表示するには、メニューバーから [ヘルプ]>[目次] を選択してください。

**注意** ECO マークアップは、アイテムの保留中リビジョンに対して保存され、これに関連付けられます。ECO が事前にファイルを置換せずにリリースされると、マークアップはアイテムのリリース済みリビジョンに対して表示されます。

**Java クライアントで、ファイル フォルダ オブジェクトからの添付ファイルをアドホック マークアップまたはレッドラインする手順は、次のとおりです。**

1. レッドラインしたいファイルを含む行をダブルクリックします。
2. Viewer が表示されたら、[マークアップ] ボタンをクリックします。(このボタンが使用できるのは、マークアップが有効な場合だけです。)
3. Viewer オンライン ヘルプで説明するツールを使用し、添付ファイルをレッドラインします。オンライン ヘルプを表示するには、メニューバーから [ヘルプ]>[目次] を選択してください。

**注意** アドホック マークアップはファイル フォルダ オブジェクトのバージョンに対して保存され、これに関連付けられます。

## Web クライアント

**注意** アイテムやファイルがすでにレッドラインされている場合、[レッドラインを行う] アイコン  のかわりに、[レッドライン済み] アイコン  が表示されます。 または  のどちらかをクリックし、レッドラインを開始します。

**Web クライアントで、設計変更からの添付ファイルをマークアップまたはレッドラインする手順は、次のとおりです。**

1. 添付ファイルのマークアップまたはレッドラインが済んでいない場合、未リリースの ECO の [対象アイテム] タブに添付ファイル付きアイテムを追加します。アイテムには、未リリース ECO に関連付けられた保留中リビジョンがあります。

**注意** ECO を通じて添付ファイルをレッドラインする場合、保留中リビジョンの添付ファイル フォルダ バージョンは特定のバージョン番号に設定する必要があります。フォルダ バージョンが [LATEST-x] に設定されている場合、レッドライン マークアップを作成することはできません。ただし、保留中リビジョンの [添付ファイル] タブでフォルダ バージョンを編集し、特定のフォルダ バージョンを参照するよう設定することができます。

たとえば、アイテムの保留中リビジョンがファイル フォルダのフォルダ バージョン LATEST-7 を参照している場合、[添付ファイル] タブの行を選択し、[編集] ボタンをクリックし、[フォルダ バージョン] ドロップダウン リストで 7 を選択します。[保存] をクリックして編集プロセスを終了します。この添付ファイルのレッドライン マークアップを作成することができます。[対象アイテム] タブで、このアイテムの [レッドラインを行う] アイコンをクリックして、[レッドライン] ページを開きます。

2. [添付ファイルのレッドライン] タブで、レッドラインを行うファイルの行で [レッドラインを行う] ボタン をクリックします (または、[レッドライン済み] ボタン )。(このボタンが使用できるのは、マークアップが有効な場合だけです。)
3. [対象アイテム] タブで、アイテムの隣のアイコンをクリックして [レッドラインを行う] ページを開きます。
4. Viewer オンライン ヘルプで説明するツールを使用し、添付ファイルをレッドラインします。オンライン ヘルプを表示するには、メニューバーから [ヘルプ]>[目次] を選択してください。

**注意** ECO マークアップは、アイテムの保留中リビジョンに対して保存され、これに関連付けられます。ECO が事前にファイルを置換せずにリリースされると、マークアップはアイテムのリリース済みリビジョンに対して表示されます。

**Web クライアントで、ファイル フォルダ オブジェクトからの添付ファイルをアドホック マークアップまたはレッドラインする手順は、次のとおりです。**

1. ファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブで、レッドラインを行うファイルの行で [レッドラインを行う] ボタン をクリックします (または、[レッドライン済み] ボタン )。(このボタンが使用できるのは、マークアップが有効な場合だけです。)
2. Viewer オンライン ヘルプで説明するツールを使用し、添付ファイルをレッドラインします。オンライン ヘルプを表示するには、メニューバーから [ヘルプ]>[目次] を選択してください。

**注意** アドホック マークアップはファイル フォルダ オブジェクトのバージョンに対して保存され、これに関連付けられます。

## 設計変更のマークアップをレッドラインする

2D、3D、EDA ファイルの設計変更レッドラインは、アイテムの保留中リビジョンに基づいています。マークアップの変更は、設計変更の [添付ファイルのレッドライン] タブ、または保留中リビジョンの [添付ファイル] タブに表示されます。

**重要** 3D 機能と 3D ファイルへのアクセスは、Agile Advanced Viewer でのみ利用可能です。概略図と PCB ファイルの機能 (EDA ファイルとも呼ばれます) は、Agile Advanced Viewer でのみ利用可能です。これらの機能を使用するには、会社に Advanced Viewer 機能へのアクセス権限を提供する [表示とマークアップ (3D)] サーバ ライセンスが必要です。サーバ ライセンスの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。ライセンスを取得するには、Agile アカウント担当者または販売店にお問い合わせください。

## [アイテム保留中リビジョン] の [添付ファイル] タブから ECO レッドラインを表示する

保留中リビジョンの設計変更マークアップ レッドラインは、アイテム保留中リビジョンの [添付ファイル] タブを表示して確認することができます。例: リビジョン (C) ECO000453。レッドラインされたファイルは、[レッドライン済み] アイコンで表示されます。

- Java クライアントで、表示したいレッドライン済みファイルを選択し、[ファイルの表示] ボタン  をクリックします。
- Web クライアントでは、表示したいファイルの行で [レッドライン済み] ボタン  をクリックします。

レッドライン済みファイルをチェックアウトした後に、[添付ファイル] タブで新バージョンをチェックインした場合、[レッドライン済み] アイコンは [添付ファイル] テーブルに表示されません。

#### Java クライアントで旧バージョンのレッドラインを表示する手順は、次のとおりです。

1. 保留中リビジョンの [添付ファイル] タブで、表示したい行を選択します。
2. [バージョンの表示] ボタンをクリックします。[バージョン] のダイアログが表示されます。
3. レッドラインを表示するバージョン行で、[レッドライン済み] ボタン  をダブルクリックします。

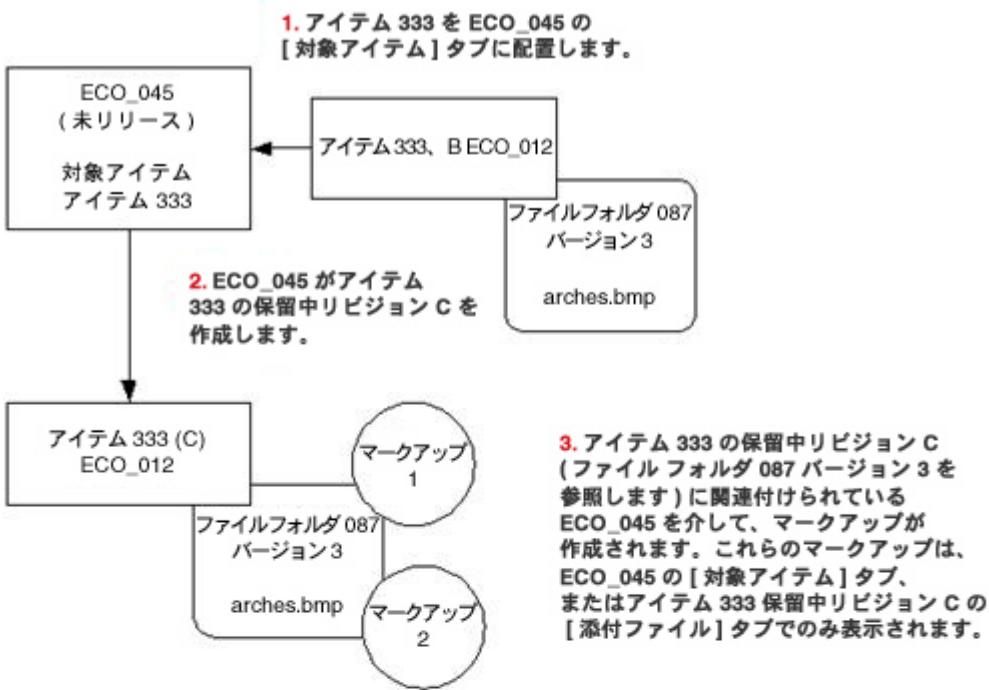
#### Web クライアントで旧バージョンのレッドラインを表示する手順は、次のとおりです。

1. 保留中リビジョンの [添付ファイル] タブで、表示したい行の [バージョンの表示] をクリックします。[バージョン] のダイアログが表示されます。
2. レッドラインを表示するバージョン行で、[レッドライン済み] ボタン  をダブルクリックします。

**注意** どのファイル フォルダ バージョンが設計変更レッドラインに関連付けられているかを判別する必要がある場合は、設計変更の [履歴] タブを参照してください。

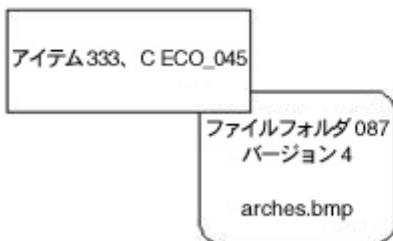
ただし、保留中リビジョン アイテムの添付ファイルが、設計変更のリリース前に置換されなかった場合、アイテムのリリース済みリビジョンからレッドラインにアクセス可能となります。下図は設計変更添付ファイルのレッドライン プロセスの例を示しています。

『Product Collaboration ユーザー・ガイド』と『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』も参照してください。



**4. ECO\_045 をレビュー、承認、リリースします。**  
ファイル フォルダ 087 内の arches.bmp ファイルはまだ更新されておらず、マークアップが付いたバージョン 3 のままであります。  
リリース済みアイテム 333 リビジョン C には、リリース済みアイテムの [添付ファイル] タブで表示可能な添付ファイルマークアップが含まれます。

**5. arches.bmp をチェックアウト、変更、チェックインします。** ファイル フォルダ 087 がバージョン 4 に更新されます。現在のリリース済みアイテム 333 リビジョン C には、添付ファイルマークアップは含まれていません。



**6. レッドラインされた arches.bmp のバージョン 3 を表示するには、リリース済みアイテム 333 リビジョン C の [添付ファイル] タブにある [バージョンの表示] 機能を使用するか、または ECO\_045 の [添付ファイルのレッドライン] タブを使用します。**  
[バージョン履歴] のダイアログ テーブルで、[レッドライン済み] アイコンをクリック (Web クライアント) またはダブルクリック (Java クライアント) すると、arches.bmp バージョン 3 およびそのマークアップを表示することができます。

## ドキュメントをマークアップする

マークアップ レイヤやマークアップ オブジェクトを含め、マークアップの操作方法については、Viewer オンライン ヘルプを参照してください。Agile Viewer のメニュー バーで、[ヘルプ]>[目次] を選択します。

### ドキュメントのマークアップに関するヒント

ファイルを保存せずに Agile Viewer を終了すると、添付ファイルに追加したレッドラインがすべて失われます。

#### マークアップ ファイルに情報を添付する

マークアップ モードで、[マークアップ]>[情報] コマンドを選択すると、[マークアップ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスには、現在アクティブなマークアップ ファイルに添付された 5 つの情報フィールドがあります。

#### 要素の回転

[要素の回転] を使用すると、シンボル マークアップ オブジェクトを回転できます。

**シンボル マークアップ オブジェクトを回転する手順は、次のとおりです。**

1. 回転するシンボル マークアップ オブジェクトを選択します。
2. [要素の回転] ボタンをクリックするか、[マークアップ]>[要素の回転] を選択します。  
この機能がアクティブの場合、[要素の回転] ボタンが、ツールバーで押されている状態のボタン（薄いグレー）として表示されます。
3. 選択オブジェクトを示す四角形のいずれかにカーソルを合わせます。
4. 十字型の（4 方向を示す）矢印キーが表示されたら、左マウス ボタンを押したまま、オブジェクトの回転角を調整します。
5. 回転角を調整したら、マウス ボタンを放します。

## 2D 機能と特徴

CAD 表示やオブジェクトの測定を含め、2D ファイルの操作方法については、Viewer オンライン ヘルプを参照してください。Agile Viewer のメニュー バーで、[ヘルプ]>[目次] を選択します。

## EDA の機能と特徴

Agile Advanced Viewer EDA 機能には、次のものが含まれます。

- アートワーク形式、PCB/IC レイアウト、概略図、製造形式などを含め、関連するすべての EDA 形式を表示できます。
- PCB レイアウトと関連概略図の間のクロス プローブ（23 ページの「[クロス プロービング](#)」を参照）。
- 製造性や製造可能性の違反に関するテストを行い、設計を検証します。

- 様々な形式で部品構成表を作成し、エクスポートします。

EDA のすべての機能の詳細は、Viewer オンライン ヘルプを参照してください。Viewer のメニュー バーで、[ヘルプ] > [目次] を選択します。

**重要** EDA 機能と EDA ファイルへのアクセスは、Agile Advanced Viewer でのみ利用可能です。これらの機能を使用するには、会社に Advanced Viewer 機能へのアクセス権限を提供する [表示とマークアップ (3D)] サーバ ライセンスが必要です。サーバ ライセンスの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。ライセンスを取得するには、Agile アカウント担当者または販売店にお問い合わせください。

## 3D 機能と特徴

照明設定やモデルを含め、3D ファイルの操作方法に関する情報は、Viewer オンライン ヘルプを参照してください。Viewer のメニュー バーで、[ヘルプ] > [目次] を選択します。

**重要** 3D 機能と 3D ファイルへのアクセスは、Agile Advanced Viewer でのみ利用可能です。これらの機能を使用するには、会社に Advanced Viewer 機能へのアクセス権限を提供する [表示とマークアップ (3D)] サーバ ライセンスが必要です。サーバ ライセンスの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。ライセンスを取得するには、Agile アカウント担当者または販売店にお問い合わせください。

## 3D の基本について

3D CAD アセンブリは互いに依存しあった複数のファイルにより構成されています。たとえば、SolidWorks や Pro/E CAD の設計は、少なくとも 1 つのアセンブリ ファイルと、1 つまたは複数の部品ファイルで構成されています。3D ファイルは主に、新しい機器の設計図を作成する製造部門で使用されます。3D ファイルは、1 つまたは複数のファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブに追加される場合があります。

- 1 つのファイル フォルダ

すべてのファイルを 1 つの CAD アセンブリに追加したものが、1 つのファイル フォルダの [ファイル] タブに追加されます。アセンブリを表示すると、アセンブリの最上位ファイルを識別するよう求めるメッセージが表示され、Viewer にアセンブリ全体が表示されます。

- 複数のファイル フォルダ

アセンブリ ファイルは、1 つのファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブに追加されます。部品ファイルは、ファイルが含まれる他のファイル フォルダ オブジェクトを、ルールのない関係としてアセンブリのファイル フォルダ オブジェクトの [関係] タブに追加することで参照できます。

3D ファイルは、設計変更 ([添付ファイルのレッドライン]) およびファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブを通して、レッドラインできます。

### Java クライアントから 3D CAD アセンブリを複数のファイルを含むファイル フォルダで表示する

Java クライアントの [添付ファイル] タブから CAD アセンブリを表示する手順は、次のとおりです。

1. アセンブリを参照するビジネス オブジェクトの [添付ファイル] タブへアクセスします。

2. CAD アセンブリを参照する、複数のファイルを持つ添付ファイル行をダブルクリックします。選択した [ファイルの選択] ウィンドウが表示されます。

**注意** 複数のファイルを持つ添付ファイル行は [ファイル名] フィールドにファイル フォルダ アイコンで示され、そのファイル フォルダ内のすべてのファイルのファイル名が続けて表示されます。

- または、[添付ファイル] タブの [ファイルの表示] ボタンを使用します。
- a. ビジネス オブジェクトの [添付ファイル] タブで、複数のファイルを持つ添付ファイル行をクリックして選択します。
  - b. [ファイルの表示] ボタン のドロップダウン矢印をクリックし、メニューから [表示] を選択します。
  3. [ファイルの選択] ウィンドウでボタンをクリックして、[選択したファイル以降のすべてのファイルをアセンブリとして表示] オプションを選択します。
  4. アセンブリの最上位ファイルまたは開始ファイルであることを示すアセンブリ ファイルのファイル行をクリックして選択します。
  5. [OK] をクリックします。

**Java クライアントの [ファイル] タブから CAD アセンブリを表示する手順は、次のとおりです。**

1. 表示するアセンブリの CAD ファイルを含むファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブへアクセスします。
2. アセンブリの最上位ファイルまたは開始ファイルの行をクリックして選択します。
3. [ファイルの表示] ボタン のドロップダウン矢印をクリックし、メニューから [アセンブリとして表示] を選択します。

## Web クライアントから 3D CAD アセンブリを複数のファイルを含むファイル フォルダで表示する

**Web クライアントの [添付ファイル] タブから CAD アセンブリを表示する手順は、次のとおりです。**

1. アセンブリを参照するビジネス オブジェクトの [添付ファイル] タブへアクセスします。
2. CAD アセンブリを参照する、複数のファイルを持つ添付ファイル行をクリックします。選択した [ファイルの選択] ウィンドウが表示されます。

**注意** 複数のファイルを持つ添付ファイル行は [ファイル名] フィールドにファイル フォルダ アイコンで示され、そのファイル フォルダ内のすべてのファイルのファイル名が続けて表示されます。

- または、[添付ファイル] タブの [ファイルの表示] ボタンを使用します。
- a. ビジネス オブジェクトの [添付ファイル] タブで、複数のファイルを持つ添付ファイル行をクリックして選択します。
  - b. [ファイルの表示] ボタン のドロップダウン矢印をクリックし、メニューから [表示] を選択します。
  3. [ファイルの選択] ウィンドウでボタンをクリックして、[選択したファイル以降のすべてのファイルをアセンブリとして表示] オプションを選択します。
  4. アセンブリの最上位ファイルまたは開始ファイルであることを示すアセンブリ ファイルのファイル行をクリックして選択します。
  5. [完了] をクリックします。

**Web クライアントの [ファイル] タブから CAD アセンブリを表示する手順は、次のとおりです。**

1. 表示するアセンブリの CAD ファイルを含むファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブへアクセスします。
2. アセンブリの最上位ファイルまたは開始ファイルの行をクリックして選択します。
3. [ファイルの表示] ボタン  のドロップダウン矢印をクリックし、メニューから [アセンブリとして表示] を選択します。

## クロス プロービング

クロス プロービングは、viewer オンライン ヘルプでも説明されています。Agile では、この機能は viewer のメニューではなく、ビジネス オブジェクトの [添付ファイル] タブ、またはファイル フォルダの [ファイル] タブから開始します。クロス プロービングの機能の詳細は、Viewer オンライン ヘルプを参照してください。Viewer のメニュー バーで、[ヘルプ]>[目次] を選択します。

**重要** クロス プロービング機能は、Agile Advanced Viewer でのみ利用可能です。これらの機能を使用するには、会社に Advanced Viewer 機能へのアクセス権限を提供する [表示とマークアップ (3D)] サーバ ライセンスが必要です。サーバ ライセンスの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。ライセンスを取得するには、Agile アカウント担当者または販売店にお問い合わせください。

クロス プロービングを使用して、別の viewer ウィンドウの ECAD 概略図やレイアウト ファイルを統合できます。

**注意** Agile 管理者は、ECAD ファイルを表示するために、[有効なモデル ファイル タイプ] フィールドで ECAD ファイルの拡張子を指定する必要があります。

必要なファイルを、クロス プローブ アクションを実行した場所と同じ [添付ファイル] タブ、または同じファイル フォルダの [ファイル] タブから選択することができます。または、1 つのファイルを現在のタブから選択し、残りのファイルをその他のオブジェクトの添付ファイルから検索することもできます。

[表示]>[検索]>[クロス プローブ] オプションを使用すると、同じ [添付ファイル] タブまたは [ファイル] タブから 2 つのファイルを選択せずに、システムでクロス プローブを使用する他のファイルを見つけることができます。つまり、部品 234 から 1 つの添付ファイルを検索し、部品 765 からもう 1 つの添付ファイルを検索することができます。

一方、1 つの ECAD ファイルを表示し、後でデスクトップから別のファイルを追加して、viewer でクロス プロービングを開始することもできます。

**クロス プロービングを実行する手順は、次のとおりです。**

1. [添付ファイル] タブまたは [ファイル] タブを表示します。
2. 作業対象となる両方のファイル行を選択し、以下を選択します。
  - Java クライアント :[ファイルの表示]>[クロス プローブ]
  - Web クライアント :[表示]>[クロス プローブ]
- 各ファイルが別々の Viewer ウィンドウで表示されます。

3. クロス プロービングを開始します。

Viewer オンライン ヘルプで、クロス プロービングに関する詳細を確認してください。Viewer のメニュー バーで、[ヘルプ]>[目次] を選択します。

## Java クライアントと Web クライアントでクロス プロービングする

### クロス プロービングを実行する手順は、次のとおりです。

1. [添付ファイル] タブまたは [ファイル] タブを表示します。
2. 作業対象となる両方のファイル行を選択し、以下を選択します。
  - Java クライアント :[ファイルの表示]>[クロス プローブ]
  - Web クライアント :[表示]>[クロス プローブ]

各ファイルが別々の Viewer ウィンドウで表示されます。

3. クロス プロービングを開始します。

Viewer オンライン ヘルプで、クロス プロービングに関する詳細を確認してください。Viewer のメニュー バーで、[ヘルプ]>[目次] を選択します。

### 検索でクロス プロービングを実行する手順は、次のとおりです。

1. [添付ファイル] タブまたは [ファイル] タブを表示します。
2. 作業対象となるファイル行を選択し、以下を選択します。
  - Java クライアント :[ファイルの表示]>[検索]>[クロス プローブ]
  - [ファイルの選択] のダイアログが表示され、3 つの [検索] タブが表示されます。
  - Web クライアント :[表示]>[検索]>[クロス プローブ]
  - [検索でファイルを表示] のダイアログが表示され、3 つの [検索] タブが表示されます。
3. 検索ダイアログでは、ビジネス オブジェクト (たとえば、アイテムや製造元部品など) を検索し、クロス プローブを使用するオブジェクトの添付ファイルを選択します。

以下の検索方法のいずれかを使用します。

- [検索] タブでは、簡易検索または絞込み検索が可能です。添付ファイルの内容について検索することもできます。
- [保存された検索] タブでは、ナビゲーション ウィンドウが開き、ここで検索フォルダを参照し、検索を実行することができます。検索結果は [選択したアイテム] テーブルへ移動される場合があります。[OK] をクリックしてください。
- [ショートカット] タブは、ナビゲーション ウィンドウを開き、ここで [ブックマーク] や [最近訪れたところ] からオブジェクトを選択することができます。システムは、現在実行している操作に該当するオブジェクトについてのみ、ショートカットを表示します。

検索結果テーブルには、添付ファイルのあるビジネス オブジェクトのみが表示されます。たとえば、最近表示したビジネス オブジェクトであっても、添付ファイルがない場合、[ショートカット] タブの [最近訪れたところ] リストにはこのオブジェクトは表示されません。

4. 検索結果が表示されたら、[結果] テーブルの行を選択すると、[関連ファイル] テーブルにこのオブジェクトの関連ファイルが表示されます。
5. [関連ファイル] テーブルで、添付ファイルを選択して [選択済みファイル] テーブルへ移動します。
6. 希望する添付ファイルの選択が完了するまで、複数検索やショートカットを続けることができます。
7. 完了したら、[OK] をクリックします。

各ファイルが別々の Viewer ウィンドウで表示されます。

8. クロス プロービングを開始します。

Viewer オンライン ヘルプで、クロス プロービングに関する詳細を確認してください。Viewer のメニュー バーで、[ヘルプ]>[目次] を選択します。

## ファイルを比較する

ファイルの比較は、viewer オンライン ヘルプでも説明されています。Agile では、ファイルの比較は Viewer のメニューからではなく、ファイル フォルダの [ファイル] タブまたはビジネス オブジェクトの [添付ファイル] タブから開始します。

ファイルの比較機能の詳細は、Viewer のオンライン ヘルプを参照してください。Viewer のメニュー バーで、[ヘルプ]>[目次] を選択します。

**重要** ファイルの比較機能は、Agile Advanced Viewer でのみ利用可能です。これらの機能を使用するには、会社に Advanced Viewer 機能へのアクセス権限を提供する [表示とマークアップ (3D)] サーバ ライセンスが必要です。サーバ ライセンスの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。ライセンスを取得するには、Agile アカウント担当者または販売店にお問い合わせください。

## ファイルのマークアップと比較

マークアップ (レッドライン) は、Agile Viewer 比較モードではサポートされません。

## Java クライアントと Web クライアントでファイルを比較する

単一ファイル フォルダの [ファイル] タブまたは単一ビジネス オブジェクトの [添付ファイル] タブから 2 つのファイルを選択して比較することができます。

**ファイルの比較を開始する手順は、次のとおりです。**

1. [添付ファイル] タブまたは [ファイル] タブを表示します。
2. 作業対象となる両方のファイルを選択し、以下を選択します。
  - Java クライアント :[ファイルの表示]>[比較]
  - Web クライアント :[表示]>[比較]

ファイルと比較結果が 1 つの viewer ウィンドウに表示されます。

ファイル比較機能とオプションの詳細は、Viewer メニュー バーの [ヘルプ]>[目次] を選択してください。

## 検索でファイルを比較する

[表示]>[検索]>[比較] コマンドを実行すると、次の処理を行うことができます。

- ファイルを異なるリリース済みアイテム リビジョンと比較します。
- ファイルを異なるファイル フォルダ バージョンと比較します。
- 任意のビジネス オブジェクトの [添付ファイル] タブまたはファイル フォルダの [ファイル] タブでファイルを選択して、比較に使用するファイルを検索します。

使用する検索に応じて、ビジネス オブジェクトを選択し、次にそのオブジェクトの関連ファイル リストからファイルを選択することができます。または、適切な権限を持っている場合は、ファイル フォルダ オブジェクトを検索し、次に選択したファイル フォルダの関連ファイル リストからファイルを選択することができます。

**注意** アイテム オブジェクトについては、初版リビジョンと未リリースの保留中リビジョンは関連ファイル リストに表示されません。

### 検索でファイルの比較を開始する手順は、次のとおりです。

1. [添付ファイル] タブまたは [ファイル] タブを表示します。
2. 作業対象となるファイル行を選択し、以下を選択します。
  - Java クライアント :[ファイルの表示]>[検索]>[比較]
  - Web クライアント :[表示]>[検索]>[比較]

[検索でファイルを比較] ダイアログに 3 つの [検索] タブが表示されます。

3. 検索ダイアログでは、ビジネス オブジェクト (アイテムや製造元部品など) を検索し、比較するオブジェクトの添付ファイルを選択することができます。

以下の検索方法のいずれかを使用します。

- [検索] タブでは、簡易検索または絞込み検索が可能です。添付ファイルの内容について検索することもできます。
- [保存された検索] タブでは、ナビゲーション ウィンドウが開き、ここで検索フォルダを参照し、検索を実行することができます。検索結果は [選択したアイテム] テーブルへ移動される場合があります。[OK] をクリックしてください。
- [ショートカット] タブは、ナビゲーション ウィンドウを開き、ここで [ブックマーク] や [最近訪れたところ] からオブジェクトを選択することができます。システムは、現在実行している操作に該当するオブジェクトについてのみ、ショートカットを表示します。

検索結果テーブルには、添付ファイルのあるビジネス オブジェクトのみが表示されます。たとえば、最近表示したビジネス オブジェクトであっても、添付ファイルがない場合、[ショートカット] タブの [最近訪れたところ] リストにはこのオブジェクトは表示されません。

4. 検索結果が表示されたら、[結果] テーブルの行を選択すると、[関連ファイル] テーブルにこのオブジェクトの関連ファイルが表示されます。
5. [関連ファイル] テーブルで、目的のファイルを選択します。
  - 選択した検索オブジェクトがファイル フォルダの場合、[関連ファイル] テーブルの [バージョン] ドロップダウン リストから、目的のファイル フォルダ バージョンを選択します。
  - 選択した検索オブジェクトがアイテムの場合、[関連ファイル] テーブルにアイテムのリリース済みリビジョンごとの添付ファイルが表示されます (widget.dwg - A や widget.dwg - B など、ファイル名とリビジョン番号または文字)。

**注意** アイテム オブジェクトについては、初版リビジョンと未リリースの保留中リビジョンは関連ファイル リストに表示されません。

- 選択した検索オブジェクトがビジネス オブジェクトの場合、[一致するファイル タイプのみ表示] チェックボックスを選択して、比較対象ファイルと同じファイル タイプの関連ファイルのみを表示します。

6. 完了したら、[OK] をクリックします。

希望する添付ファイルの選択が完了するまで、複数検索やショートカットを続けることができます。

ファイルと比較結果が 1 つの viewer ウィンドウに表示されます。ファイル比較機能とオプションの詳細は、Viewer メニュー バーの [ヘルプ]>[目次] を選択してください。

## ファイルのオーバーレイ

ファイルのオーバーレイは、viewer オンライン ヘルプでも説明されています。Agile では、この機能は viewer メニューではなく、ファイル フォルダの [ファイル] タブから実行します。ファイルのオーバーレイ機能の詳細は、Viewer のオンライン ヘルプを参照してください。Viewer のメニュー バーで、[ヘルプ]>[目次] を選択します。

**重要** ファイルのオーバーレイ機能は、Agile Advanced Viewer でのみ利用可能です。これらの機能を使用するには、会社に Advanced Viewer 機能へのアクセス権限を提供する [表示とマークアップ (3D)] サーバ ライセンスが必要です。サーバ ライセンスの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。ライセンスを取得するには、Agile アカウント担当者または販売店にお問い合わせください。

## Java クライアントと Web クライアントでファイルをオーバーレイする

**ファイルのオーバーレイを開始する手順は、次のとおりです。**

1. [添付ファイル] タブまたは [ファイル] タブを表示します。
2. 作業対象となる両方のファイル行を選択し、以下を選択します。
  - Java クライアント :[ファイルの表示]>[オーバーレイ]
  - Web クライアント :[表示]>[オーバーレイ]

ファイルは 1 つの viewer ウィンドウで、1 つずつ重ねて表示されます。ファイルのオーバーレイ機能（たとえば、メニュー バーの [ファイル]>[オーバーレイ]）とオプションの詳細は、Viewer メニュー バーの [ヘルプ]>[目次] を選択してください。

**検索でファイルのオーバーレイを開始する手順は、次のとおりです。**

1. [添付ファイル] タブまたは [ファイル] タブを表示します。
2. 作業対象となるファイル行を選択し、以下を選択します。
  - Java クライアント :[ファイルの表示]>[検索]>[オーバーレイ]  
[ファイルの選択] のダイアログが表示され、3 つの [検索] タブが表示されます。
  - Web クライアント :[表示]>[検索]>[オーバーレイ]  
[検索でファイルを表示] のダイアログが表示され、3 つの [検索] タブが表示されます。
3. 検索ダイアログでは、ビジネス オブジェクト（たとえば、アイテムや製造元部品など）を検索し、ファイルのオーバーレイを使用するオブジェクトの添付ファイルを選択します。  
以下の検索方法のいずれかを使用します。
  - [検索] タブでは、簡易検索または絞込み検索が可能です。添付ファイルの内容について検索することができます。
  - [保存された検索] タブでは、ナビゲーション ウィンドウが開き、ここで検索フォルダを参照し、検索を実行することができます。検索結果は [選択したアイテム] テーブルへ移動される場合があります。[OK] をクリックしてください。
  - [ショートカット] タブは、ナビゲーション ウィンドウを開き、ここで [ブックマーク] や [最近訪れたところ] からオブジェクトを選択することができます。システムは、現在実行している操作に該当するオブジェクトについてのみ、ショートカットを表示します。

検索結果テーブルには、添付ファイルのあるビジネス オブジェクトのみが表示されます。たとえば、最近表示したビジネス オブジェクトであっても、添付ファイルがない場合、[ショートカット] タブの [最近訪れたところ] リストにはこのオブジェクトは表示されません。

4. 検索結果が表示されたら、[結果] テーブルの行を選択すると、[関連ファイル] テーブルにこのオブジェクトの関連ファイルが表示されます。
5. [関連ファイル] テーブルで、添付ファイルを選択して [選択済みファイル] テーブルへ移動します。
6. 希望する添付ファイルの選択が完了するまで、複数検索やショートカットを続けることができます。
7. 完了したら、[OK] をクリックします。

ファイルは 1 つの viewer ウィンドウで、1 つずつ重ねて表示されます。ファイルのオーバーレイ機能（たとえば、メニュー バーの [分析]>[オーバーレイ]）とオプションの詳細は、Viewer メニュー バーの [ヘルプ]>[目次] を選択してください。

## 概略図と PCB ファイルの操作

**重要**

概略図と PCB ファイルの機能 (EDA ファイルとも呼ばれます) は、Agile Advanced Viewer でのみ利用可能です。これらの機能を使用するには、会社に Advanced Viewer 機能へのアクセス権限を提供する [表示とマークアップ (3D)] サーバ ライセンスが必要です。サーバ ライセンスの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。ライセンスを取得するには、Agile アカウント担当者または販売店にお問い合わせください。

これらの機能の詳細は、viewer オンライン ヘルプを参照してください。Viewer のメニュー バーで、[ヘルプ]>[目次] を選択します。

## リアルタイム コラボレーション

コラボレーション機能の詳細は、viewer オンライン ヘルプを参照してください。Viewer のメニュー バーで、[ヘルプ]>[目次] を選択します。以降の項では、Agile View Server 情報およびコラボレーション セッションに影響する Agile 権限について説明しています。

**重要**

リアルタイム コラボレーション比較機能は、Agile Advanced Viewer でのみ利用可能です。これらの機能を使用するには、会社に Advanced Viewer 機能へのアクセス権限を提供する [表示とマークアップ (3D)] サーバ ライセンスが必要です。サーバ ライセンスの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。ライセンスを取得するには、Agile アカウント担当者または販売店にお問い合わせください。

## コラボレーション セッションの概要

コラボレーション機能を使用すれば、複数のユーザーが対話しながらドキュメントのレビューを同時にを行うことができます。このため、レビューのためにドキュメントを何度もやり取りする手間を省くことができます。Agile ディスカバリ権限、読み取り権限、および添付ファイルをレッドラインするための適切な権限 (Agile のデフォルト役割の [自分をマークアップ] など) を持っているユーザーはすべて、コラボレーション機能を使用することができます。

必要な Agile 権限がある場合は、[コラボレーション] メニューから、コラボレーション セッションを開始したり、ホストとして機能することができます。また、ホストから依頼された場合にコラボレーション セッションに参加することもできます。

**重要**

コラボレーション セッションのホストを務める場合、予定の参加者全員がディスカバリ権限、読み取り権限、および添付ファイルをレッドラインするための適切な権限 (Agile のデフォルト役割の [自分をマークアップ] など) を持っていることを確認してください。ファイルを表示およびレッドラインできる場合、参加者は必要な権限を持っています。表示もレッドラインもできない参加者がいる場合は、コラボレーション セッションを開始する前に Agile 管理者に問い合わせてください。Agile 管理者によって必要な権限が付与されます。

コラボレーション セッションに参加するには、コラボレーション セッション開始時に、すべての参加者が Agile にログインし、viewer でファイルを表示できる必要があります。コラボレーション セッションであなたがレビューするファイルを参加者が表示する必要はありません。ただし、参加者はすべてのファイルを表示できます。このため、参加者は読み込み時間の短い小さなファイルを表示する可能性があります。

ホストがコラボレーション セッションを開始すると、サーバ上にセッション オブジェクトが作成されます。このオブジェクトはコラボレーション セッションの間、維持されます。コラボレーション セッション中は、[コラボレーション] メニューからセッション情報を取得できます。セッション情報として、セッション テーマ (コラボレーション セッションに付けられた名前)、セッション ID (各セッション テーマに割り当てられる一意の ID)、表示されたベース ファイルの名前、ホスト、および参加ユーザーのリストが表示されます。

コラボレーション セッション中にセッション マークアップ ファイルが作成されます。このファイルに対して、参加者全員がマークアップ要素を追加できます。参加者には異なるレイヤ色が割り当てられるため、各参加者が追加したマークアップ要素を識別できます。マークアップ ファイルはセッションのホストが所有します。このファイルを保存できるのはホストのみです。

**注意**

コラボレーション機能を使用するには、すべてのユーザーが同じ Agile Viewer サーバに接続する必要があります。

## デジタル モックアップ

3D モードでは、モックアップ機能 (DMU) を使用して、複数のアセンブリの配置と妨害をテストできます。レッドライン マークアップ要素としてモックアップを保存できます。

### Java クライアントと Web クライアントでのデジタル モックアップ

**ファイルのデジタル モックアップを開始する手順は、次のとおりです。**

1. [添付ファイル] タブまたは [ファイル] タブを表示します。
2. 作業対象となるすべてのファイル行を選択し、以下を選択します。
  - Java クライアント :[ファイルの表示]>[デジタル モックアップ]
  - Web クライアント :[表示]>[デジタル モックアップ]
 ファイルは同じ Viewer 作業領域へロードされます。
3. [分析] メニューの機能を含め、viewer の機能を使用してモデルを操作します。たとえば、[ユーザー定義の座標系]、[操作者]、[妨害チェック]、[部品配置] などがあります。

これらの機能の詳細は、viewer オンライン ヘルプを参照してください。Viewer のメニュー バーで、[ヘルプ]>[目次] を選択します。

検索でファイルのデジタル モックアップを開始する手順は、次のとおりです。

1. [添付ファイル] タブまたは [ファイル] タブを表示します。
  2. 作業対象となるファイル行を選択し、以下を選択します。
    - Java クライアント :[ファイルの表示]>[検索]>[デジタル モックアップ]  
[ファイルの選択] のダイアログが表示され、3 つの [検索] タブが表示されます。
    - Web クライアント :[表示]>[検索]>[デジタル モックアップ]  
[検索でファイルを表示] のダイアログが表示され、3 つの [検索] タブが表示されます。
  3. 検索ダイアログでは、ビジネス オブジェクト (たとえば、アイテムや製造元部品など) を検索し、ファイルのモックアップを使用するオブジェクトの添付ファイルを選択します。

以下の検索方法のいずれかを使用します。

    - [検索] タブでは、簡易検索または絞込み検索が可能です。添付ファイルの内容について検索することもできます。
    - [保存された検索] タブでは、ナビゲーション ウィンドウが開き、ここで検索フォルダを参照し、検索を実行することができます。検索結果は [選択したアイテム] テーブルへ移動される場合があります。[OK] をクリックしてください。
    - [ショートカット] タブは、ナビゲーション ウィンドウを開き、ここで [ブックマーク] や [最近訪れたところ] からオブジェクトを選択することができます。システムは、現在実行している操作に該当するオブジェクトについてのみ、ショートカットを表示します。
  4. 検索結果が表示されたら、[結果] テーブルの行を選択すると、[関連ファイル] テーブルにこのオブジェクトの関連ファイルが表示されます。
  5. [関連ファイル] テーブルで、添付ファイルを選択して [選択済みファイル] テーブルへ移動します。
  6. 希望する添付ファイルの選択が完了するまで、複数検索やショートカットを続けることができます。
  7. 完了したら、[OK] をクリックします。
- ファイルは同じ Viewer 作業領域へロードされます。
8. [分析] メニューの機能を含め、viewer の機能を使用してモデルを操作します。たとえば、[ユーザー定義の座標系]、[操作者]、[妨害チェック]、[部品配置] などがあります。
- これらの機能の詳細は、viewer オンライン ヘルプを参照してください。Viewer のメニュー バーで、[ヘルプ]>[目次] を選択します。

# 変更済みまたは使用不可能な Viewer 機能

扱うトピックは次のとおりです。

■ ユーザー インターフェースの変更.....	31
■ ファイル ストレージと管理の変更.....	31
■ ファイルを開く機能 .....	32
■ ハイパーリンクを使用する .....	32
■ Viewer モード .....	32

## ユーザー インターフェースの変更

Viewer オンライン ヘルプで説明されている以下の機能は、変更されているか、または利用不可能となっています。

- 複数ファイルを表示するための [ウィンドウ] メニューとそのオプション ([新規]、[カスケード]、[水平タイル]、[垂直タイル]) は使用できません。（「Agile Viewer で複数のファイルを表示する」を参照してください。）
- ツールバーをクリック アンド ドラッグし、移動させる機能は利用できません。
- ニーモニック文字のショートカット ([Alt]+ 文字) は使用できません。また、メニューでは下線文字として表示されていません。
- ツール ヒント、簡易メニューは利用できません。
- [カスタマイズ]>[オプション] メニュー選択には、ツールバーとツール ヒント設定が含まれていません。

## ファイル ストレージと管理の変更

Agile システムは添付ファイルとマークアップ（レッドライン ファイル）へのアクセスを管理し、制御するため、viewer オンライン ヘルプで説明されている次の機能は変更されているか、利用できない場合があります。

これらの変更の多くは、ファイルを開く、保存する、そして保存する場所などに関連しています。Viewer 機能（たとえば、viewer オンライン ヘルプで説明されている [ファイル]>[開く]）を使用してファイルを表示するかわりに、Agile オブジェクト [添付ファイル] タブとファイル フォルダの [ファイル] タブでファイルを選択し、Agile File Manager (AFM) の一部であるファイル格納庫から読み取ることができます。この後、ファイルは viewer ウィンドウに表示されます。マークアップ ファイルを作成し、保存すると、ファイル格納庫にも保存されます。（9 ページの「[Viewer で Agile 添付ファイルを開く](#)」と 15 ページの「[添付ファイルのマークアップまたはレッドラインについてのガイドライン](#)」を参照してください。）

Viewer 機能に関するその他の詳細は、viewer オンライン ヘルプを参照してください。オンライン ヘルプを表示するには、メニューバーから [ヘルプ]>[目次] を選択してください。

## ファイルを開く機能

Viewer オンライン ヘルプで説明されている次の機能は使用できません。

- Viewer 起動表示 (空の viewer ウィンドウ)。
- Windows エクスプローラーから viewer ウィンドウへファイルをドラッグ & ドロップして開きます。
- 以下の viewer [ファイル] メニュー選択は、Agile Advanced Viewer では使用できません。[開く]、[参照]、[次のファイル]、[前のファイル]、[ファイルのロード]、[URL を開く]、[閉じる]。
- Viewer ウィンドウで表示されたファイル ディレクトリのアーカイブ。
- マークアップ ファイルのインポートとエクスポート機能は使用できません。3D モデルのインポートとエクスポートは使用できません。

マークアップファイルを含め、すべてのファイルへのアクセスは、Agile システムにより管理されています。Agile でのマークアップ ファイルの詳細は、15 ページの「[マークアップ - しくみ](#)」と 15 ページの「[添付ファイルのマークアップまたはレッドラインについてのガイドライン](#)」を参照してください。

## ハイパーリンクを使用する

ハイパーリンクの使用と作成の詳細は、Agile Viewer オンライン ヘルプを参照してください。オンライン ヘルプを表示するには、viewer メニューバーから [ヘルプ]>[目次] を選択してください。

ハイパーリンク マークアップ要素を作成することはできますが、Agile ファイル格納庫で他のファイルにハイパーリンクを作成することはできません。

この viewer 機能の目的は、関連情報を集め、リンクすることです。この機能は、[添付ファイル] タブ (複数のファイル フォルダ オブジェクトが添付されている場合もあります) と [関係] タブなど、Agile 機能により提供されています。ファイル フォルダ オブジェクトと添付ファイルの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

## Viewer モード

オンライン ヘルプで説明されている viewer モードの起動表示やサムネイル モードは使用できません。

# 印刷

扱うトピックは次のとおりです。

■ Viewer からドキュメントを印刷する.....	33
■ 印刷のプロパティのヘッダ/フッタ グループ.....	33
■ 印刷プロパティのウォーターマークとバナー.....	34
■ 印刷プロパティのスタンプ グループ.....	34
■ DGN ファイルを印刷する.....	35

## Viewer からドキュメントを印刷する

ファイル フォルダ オブジェクトの [ファイル] タブから添付ファイルを印刷する方法については、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の第 9 章「添付ファイルを操作する」と第 10 章「ファイル フォルダを使用する」を参照してください。

Viewer からの印刷の詳細は、viewer オンライン ヘルプを参照してください。オンライン ヘルプを表示するには、viewer メニューバーから [ヘルプ]>[目次] を選択してください。

Agile 管理者による Viewer 印刷オプションのカスタマイズ方法の詳細は、37 ページの「[Viewer の管理タスク](#)」を参照してください。

以降の項では、viewer を Agile システムに統合したために変更された印刷機能について説明しています。

## 印刷のプロパティのヘッダ/フッタ グループ

このグループでは、ドキュメントのすべての印刷ページに入るヘッダとフッタを設定します。

**注意** これらの設定は、Agile 管理者が管理および修正します。

### ヘッダおよびフッタの設定を表示するには

[ヘッダ / フッタ] タブを選択します。

パーセント記号は、%% で示されます。他のコードは以下のとおりです。

- %f = ドキュメントの完全なパス (たとえば D:\PICS\TIFF\CTROK.TIF)
- %v = ドキュメントのドライブ
- %d = ドキュメントのディレクトリ (たとえば D:\PICS\TIFF)
- %b = ドキュメントのベース名 (たとえば CTROK)
- %e = ドキュメントのファイル拡張子 (たとえば TIF)
- %n = ドキュメントの合計ページ数

- %p = 現在のページ番号
- %N = 合計タイル ページ数
- %P = 現在のタイル番号
- %r = 新規行
- %F = Excel ネイティブの印刷設定
- %Y = 日付 :年
- %M = 日付 :月
- %D = 日付 :日
- %W = 日付 :曜日
- %H = 時刻 :時間
- %U = 時刻 :分
- %S = 時刻 :秒

## 印刷プロパティのウォーターマークとバナー

[印刷プロパティ] ダイアログ ボックスには [ウォーターマーク] タブが含まれています。このタブは、[Agile Viewer 印刷プロパティ] ダイアログ ボックスでは変更できません。

[ウォーターマーク] と [バナー] 設定は Agile Administrator で定義され保持されます。Agile Administrator ウォーターマークとバナー設定により、Agile オブジェクトに添付されたファイルのプリントアウトにバナーとウォーターマークを表示するかどうか、またこれらのバナーとウォーターマークの内容を指定できます。バナーとウォーターマークは Agile Viewer を使用して印刷したファイルに表示されます。

添付ファイルのウォーターマークはファイルの下に挿入されます。したがって、ソリッド形式のファイル タイプ (PDF、BMP など) では、ウォーターマークは表示されません。CAD などの透過性を持つファイル タイプでのみ表示されます。

### ウォーターマーク グループ

現在のドキュメントの内容の上に、薄い透過性のウォーターマークが印刷されます。

**注意** 高解像度のモノクロ印刷の場合、透過性のウォーターマークが現在のドキュメント内容の上に印刷されます。低解像度のモノクロ印刷の場合も、ウォーターマークは現在のドキュメントの内容の上に印刷されますが、透過性ではありません。

これらのウォーターマーク設定は、Agile 管理者が管理および修正します。『管理者ガイド』を参照してください。詳細は、37 ページの [「Viewer の管理タスク」](#) を参照してください。

### 印刷プロパティのスタンプ グループ

**注意** Agile Viewer の設定によっては、本機能が利用できないことがあります。

## DGN ファイルを印刷する

Agile Viewer では MicroStation と同じように、拡張子が DGN のファイルを印刷するように設定できます。このオプションはサーバ側で設定する必要があります。詳細は、Agile システム管理者にお問い合わせください。



# Viewer の管理タスク

扱うトピックは次のとおりです。

▪ 印刷オプションを設定する .....	37
▪ フォントを追加する .....	39
▪ Excel ファイルを表示する .....	39

**注意** Agile Viewer に関する Agile PLM 管理者の設定 (例: [サポートされるファイル タイプ] と [有効なモデル ファイル タイプ] 設定など) については、『管理者ガイド』の「一般システム設定」、Viewer とファイルに関する項を参照してください。

追加の Agile View Server マニュアルがどこで見つかるかを含め、Agile View Server の詳細は、Agile PLM システムの適切な Agile インストール ガイドを参照してください。Agile View Server の設定に関する章も参照してください。

## 印刷オプションを設定する

一部のファイル形式では、正しく印刷するために特別な設定が必要になります。一般に、全ユーザーまたは個別のユーザーに対する印刷設定を変更することができます。

- 全ユーザーに対する印刷設定を変更するには、AVS¥bin¥allusers.ini ファイルの一部のパラメータを修正する必要があります。
- 個別のユーザーに対する印刷設定を変更するには、AVS¥bin¥profiles の下にある各ユーザーの .ini ファイルのパラメータの一部を修正する必要があります。

**注意** allusers.ini ファイルのオプションを修正しても、既存のユーザー プロファイルが自動的に修正されるわけではありません。すべての個別ユーザー プロファイルを編集することは事実上不可能であるため、allusers.ini ファイルを修正した場合は、以下に示した手順で既存のユーザー プロファイルを削除してください。ユーザーが次回 Agile Viewer を開くときに、新しい allusers.ini オプション設定を含む新規ユーザー プロファイルが作成されます。各自のユーザー プロファイルがリセットされることを事前にユーザーに通知してください。

印刷時のウォーターマーク、ボーダ、およびヘッダ (バナー) の表示方法を変更するには、以下の .ini ファイル パラメータを修正する必要があります。

- [OPTIONS] - HPBACKGROUND、KEEPORIGINALCOLORS、SWSHOWVIEWPORTBORDER
- [PRINTWATERMARK] - FONTNAME、FONTSIZE、ORIENTATION、FONTSTYLE
- [PRINTHEADERS] - FONTNAME、FONTSIZE、ORIENTATION、FONTSTYLE

次に、ウォーターマークおよびボーダの印刷手順と、ヘッダおよびウォーターマークの修正手順について説明します。

## .hpg および .plt ファイルのウォーターマークを印刷する

.hpg および .plt ファイルのウォーターマークを正しく印刷するには、背景色を正しく設定する必要があります。

**注意** ウォーターマークのイメージ、またはウォーターマークのイメージで使用される色が透過性ではない場合、ウォーターマークは表示できません。

---

### 背景色を設定するには

1. JVue サーバをシャットダウンします。
2. Agile Viewer サーバがインストールされているドライブの AVS\bin\Profiles フォルダを参照します。
3. このフォルダのユーザー プロファイル (John Smith.ini など) をすべて削除します。
4. allusers.ini ファイル (AVS\bin\allusers.ini) を編集します。
5. [OPTIONS] セクションで、次の 2 行を追加または更新します。

HPBACKGROUND = 0

KEEPORIGINALCOLORS = 1

## SolidWorks ファイルのビューポート ボーダを印刷する

SolidWorks ファイルのビューポート ボーダを正しく印刷するには、ビューポート ボーダの表示および印刷を有効にする必要があります。

### オプションを有効にするには

1. JVue サーバをシャットダウンします。
2. Agile Viewer サーバがインストールされているドライブの AVS\bin\Profiles フォルダを参照します。
3. このフォルダのユーザー プロファイル (John Smith.ini など) をすべて削除します。
4. allusers.ini ファイル (AVS\bin\allusers.ini) を編集します。
5. [OPTIONS] セクションで、次の行を追加または更新します。

SWSHOWVIEWPORTBORDER = 1

## ヘッダとウォーターマーク フォントの設定を修正する

**注意** フォント サイズが大きすぎる場合やウォーターマーク テキストの文字が多すぎる場合、ウォーターマークが切り取られることがあります。これにより、ウォーターマークでイメージが歪むことがなくなります。

---

### ウォーターマークのフォント サイズを設定するには

1. JVue サーバをシャットダウンします。
2. Viewer サーバがインストールされているドライブの AVS\bin\Profiles フォルダを参照します。
3. このフォルダのユーザー プロファイル (John Smith.ini など) をすべて削除します。
4. allusers.ini ファイル (AVS\bin\allusers.ini) を編集します。
5. [PRINTHEADERS] セクションおよび [PRINTWATERMAK] セクションで、Fontname、Fontsize、Orientation、および Fontstyle の行を更新します。次に例を示します。

```
FONTNAME = Serif  
FONTSIZE = 24  
ORIENTATION = 1  
FONTSTYLE = 2
```

**注意** ORIENTATION の値として、1(縦) または 2(横) を指定できます。

## フォントを追加する

特定のフォントが Agile Viewer により認識されるように、allusers.ini 設定ファイルにフォント パスを追加することができます。

**フォントを追加する手順は、次のとおりです。**

1. JVue サーバをシャットダウンします。
2. Agile Viewer サーバがインストールされているドライブの AVS\bin\Profiles フォルダを参照します。
3. このフォルダのユーザー プロファイル (John Smith.ini など) をすべて削除します。
4. allusers.ini ファイル (AVS\bin\allusers.ini) を編集します。
5. [OPTIONS] セクションで、次の行を更新します。  
`XFONTPATHS = {paths}`
6. フォント ファイルの完全なパスを行に追加します。セミコロンでパスを区切ります。
7. allusers.ini ファイルを保存します。
8. Web ブラウザのキャッシュをクリアします。
9. JVue サーバを再起動します。

## Excel ファイルを表示する

Agile Viewer で Excel ファイルを表示する際は、すべてのページが表示されない場合があります。ネイティブ アプリケーションでファイルを表示し、ファイル内の正しいページ数を確認してください。

